

第1回審議会における各委員からのご意見への対応について

参考資料4

分野	対応	委員	ご意見要旨
都市像	都市像を導く考え方に反映	平本会長	○人口減少緩和の視点が重要。
		柴田委員	○生産年齢という区分は見直すべき。
		大西委員	○65歳～74歳を生産年齢人口に組み入れるという考え方の転換が必要。
		高野委員	○札幌は北海道においてライバルがない状況であり、危機意識や競争意識が低い。
		中田委員	○札幌一極集中を是正する必要。
		高野委員	○札幌の持続的発展のためには道内他市町村の持続的発展が必要。
まちづくりに共通する重要概念	まちづくりに共通する3つの重要概念（ユニバーサル、ウェルネス、スマート）の設定に反映	梶井委員	○札幌市は今後、真の共生社会を目指していくと理解しており、共生社会を支える意識をどう育むのかが重要。
		高橋委員	○札幌は、歴史ある姉妹都市交流で多文化共生の土台を作ってきたので、暮らしのあらゆる面でユニバーサルな社会を目指して行って欲しい。
		牧野委員	○ハンディのある人にやさしいまちは誰にとってもやさしいまちである。
		大西委員	○今後は「健康」がキーワードの1つ。
		川島委員	○コロナ禍において健康づくりやスポーツは重要であり、バーチャルや非接触、デジタル、屋内でできるという観点も必要。
		村木委員	○1つのデータを分野間で連携する等、それがスマート化と連動する。
		山本強委員	○Society5.0に対する札幌市の考えを示すべき。

子ども・若者分野	基本目標 1 に反映 安心して子どもを生き育てることができる、子育てに優しいまち ・子どもと子育て家庭を社会全体で支えていく環境の整備 ・性別を問わず、働きながら子育てができる環境の整備	吉岡委員	○札幌独自の子育て支援もあり、それは強みである。
			○親が長時間労働では子どもが幸せになれないため、働き方を変えていく必要がある。
			○NPOや行政が一体となり子育て支援を行っていくべき。
			○子育てに関して、自分たちで話し合っ助けていくことができるような場、経験が札幌は少ない。
	基本目標 2 に反映 誰一人取り残されずに、子どもが健やかに成長し、若者が希望を持って暮らすまち ・虐待やいじめなど、子どもの権利が侵害される事態を防ぎ、子どもの権利保障を推進 ・若者の理想とするライフプランの実現や、社会的自立に向けた環境を整備	佐藤理良委員	○孤立している家族を社会の中で支援すべき。
		平本会長	○例えば「日本で一番子育てがしやすいまち」とすることで若者の流入につながる。
		佐藤理良委員	○虐待対応には長期的な支援が重要。
		松田委員	○札幌市の強みの一つに「子どもの権利条例制定」がある。
	基本目標 3 に反映 子どもたちが互いを尊重しながら学び合い、健やかに育つまち ・個性を伸ばし、心身ともに健康でいられる環境づくりなどを推進 ・ICTの利活用など、時代に即した内容・学び方で質の高い教育を推進	吉岡委員	○札幌市独自の教育の在り方としてフリースクールを公教育と同程度にできないか。
		山本一枝委員	○子どもが幸せであることが一番大切であり、そうなることで人口減少対策にもつながる。
		吉岡委員	○人が育ち合うという視点が重要。
		佐藤理良委員	○子どもころからの福祉教育が重要。
	高橋委員	○札幌市は、PMFなど国際的な学びを提供するなど、リアルな学びの場を提供するまちであり、今後その重要性は増していく。	
	山中委員	○札幌にはグローバルやダイバーシティに対応した魅力的な学びの環境があり、これは人口流出を防ぐことにもつながる。	

生活・暮らし分野	基本目標4に反映 誰もが健康的に暮らし、生涯活躍できるまち ・市民や企業の健康への意識向上など健康寿命延伸に向けた取組の充実 ・生涯学習や学び直しの機会の充実	大西委員	○74歳までが現役となると長丁場であり、若い人が健康を損ねないような取組が重要。
		佐藤理良委員	○今後、高齢者が健康を維持し、生きがいをもっていける環境が重要であるが、何をやって良いかわからないという高齢者の声も聞く。
		尚和委員	○高齢者が増える中で、健康寿命の延伸が重要であるが、感染対策と、家の中でも取組ができることの両輪が重要。
		福士委員	○高齢者が引きこもることのないようにしなければいけない。
		松田委員	○人生100年時代と言われる中、今後は大学の位置付けが重要であり、セカンドチャンスに溢れるまちが求められる。
	基本目標5に反映 生活しやすく住みよいまち ・医療・介護体制の整備や高齢者・障がいのある人・その家族への支援の充実 ・建築物等のバリアフリーの推進 ・行政手続き等の利便性向上に向けたICT活用の推進	尚和委員	○高齢者のデジタル化への対応という視点も重要。
		福士委員	
		浅香委員	○障がいのある方への支援について、より高い目標を持ち、一層暮らしやすいまちを目指して行って欲しい。
		定池委員	○平時の福祉政策も含めて、困りごとを抱えている人を最後まで手を携えていくことが重要。
地域分野	基本目標6に反映 互いに認め合い、支え合うまち ・心のバリアフリーの推進 ・世代や国籍などを超えた交流の促進	梶井委員	○個人的な便利さが上昇すると、他者に関心を持たない、無関心になるというジレンマがある。
		高橋委員	○札幌が、外国人にとっても良い経験ができ安心して過ごせるまちという観点が、共生にもつながっていく。
	基本目標7に反映 誰もがまちづくり活動に参加できるまち ・ライフスタイルに合わせた参加ができる環境の整備 ・担い手育成・確保策の充実 ・地域コミュニティを育くみ、大切にす意識の醸成	尚和委員	○NPO法人の活動財源はまだまだ少ない現状であり、若い担い手を増やしていくことも必要。
		牧野委員	○若者が町内会、地域に参加してエネルギーやアイデアをもたらすことが必要。
		山中委員	○まちづくりセンターのような、みんなで話し合える場づくりも重要。

安全・安心分野	基本目標8に反映 防災・減災体制が整った災害に強いまち ・日頃からの備えなど地震、風水害や感染症の防災対策の充実 ・災害が起こった際の医療や要配慮者等への対応など減災対策の充実	定池委員	○北海道胆振東部地震に被災し、今もなお生活再建の途上の方もいる中、今後は、防災・減災に加えて被災者へのサポートという視点が重要。
		牧野委員	○高齢者、弱者への避難所などの体制は不足していると思う。
	基本目標9に反映 日常の安全が保たれたまち ・安全な交通環境などの整備 ・犯罪や消費生活等に関するトラブルの発生を未然に防止する環境の整備	尚和委員	○高齢者のデジタル化への対応という視点も重要。
		福士委員	
経済分野	基本目標10に反映 強みを生かした産業が経済をけん引し、誰もがチャレンジできるまち ・食、観光、IT、健康医療分野のさらなる振興 ・創業後も含めた幅広いスタートアップ支援や誰もがチャレンジしやすい環境の整備	松田委員	○若者は札幌愛が強いものの受け身の傾向があり、東京へ行ってしまふのを留める必要。 ○いつでも学び直しや再チャレンジできるまちであることが必要。
		佐藤大輔委員	○意識の高い若者ほど東京に転出してしまふ状況を変えなければならない。
		中田委員	○大学・医療機関の集積を生かした産業の振興や札幌の強みである食・IT分野を振興すべき。特に、IT分野は、国のIT推進を機会として生かす必要。
		山本一枝委員	○経営は社会を変える価値ある生き方であり、アントレプレナーシップ育成・教育が重要。
		山本強委員	○東京や大企業に奪われないよう、幅広いスタートアップ支援が必要。
		高野委員	○札幌は特に男性が付加価値の高い大学等を求めて道外流出することを止めるべき。

経済分野	<p>基本目標11に反映</p> <p>多様な主体と高い生産性が経済成長を支えるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元企業等への経営支援の充実や生産性向上に向けたICTの活用などを推進 ・国内外から企業や優秀な人材の誘致を推進 	木村委員	○単価の高い仕事がないのが札幌の弱みであり、ブランド力はあるので仕事を創出していくことが重要。
		佐藤大輔委員	○意識の高い若者ほど東京に転出してしまう状況。
			○札幌には魅力的な大学や企業が多くあるため、ブランディングして発信すべき。
		中田委員	○札幌は災害が少なく、サテライトオフィスが整っている強みがあるため、札幌に来たいという人を逃さないようにすべき。
平本会長	○札幌は製造業が少なく賃金水準の低いサービス業が多いことから、賃上げや製造業の誘致を目指すべき。		
平本会長	○人口減少を緩和する施策が必要。		
	<p>基本目標12に反映</p> <p>雇用が安定的に確保され、多様な働き方ができるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の人手不足解消、労働者の長時間労働の解消に向けた取組の推進 ・テレワーク等の柔軟な働き方やワーク・ライフ・バランスの推進 ・一人ひとり能力を発揮し、やりがいをもって働ける環境の整備 	中田委員	<p>○札幌は災害が少なく、サテライトオフィスが整っている強みがあるため、札幌に来たいという人を逃さないようにする。</p> <p>○札幌は製造業が少なく賃金水準の低いサービス業が多い。賃上げや製造業の誘致を目指すべき。</p>
スポーツ・文化分野	<p>基本目標13に反映</p> <p>世界屈指のウィンタースポーツシティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共生社会や環境都市の実現、都市のリニューアル等に向けて大規模な国際大会を誘致・開催 ・市民や観光客が雪・ウィンタースポーツを楽しめる環境の充実 	川島委員	○コロナ禍においては外でできるウインタースポーツ等が重要。
		原田委員	○オリパラは一生一度のチャンスであり、札幌の最大の観光資源である「雪」を活かすことが重要。
			○アジアのスノーリゾートを目指すべき。
	○ハコモノは資源・レガシーとして経済を推進する起爆剤として重要であり、新幹線延伸も合わせて積極的に稼げる施設にするべき。		

スポーツ・文化分野	基本目標14に反映 誰もがスポーツに親しめるまち ・年齢や障がいを問わずスポーツをする・みる・ささえることができる環境の整備	川島委員	○コロナ禍において健康づくりやスポーツは重要であり、バーチャルや非接触、デジタル、屋内でできるという観点も必要。 ○人口減少社会においては、施設の機能向上と集約は必要。
	基本目標15に反映 文化芸術が心の豊かさや創造性を育むまち ・札幌ならではの文化芸術を世界へ発信 ・文化芸術を通じた学びや交流の機会の充実	柴田委員	○札幌は世界随一である冬の芸術祭を開催し、「冬の文化都市」を宣言するべき。雪像製作技術などは他にはない特殊技術のため活かしていくべき。
環境分野	基本目標16に反映 世界に冠たる環境都市 ・脱炭素社会の実現に向けた取組の推進 ・地域循環共生圏の形成などの循環型社会の構築に向けた取組の推進	村木委員	○都心は建替えが控えていることから、都心のリニューアルにあわせ、グリーンビル化が進んでいくと考えられる。
		山中委員	○札幌市は、環境分野で非常に先進的な取組を行っている都市である。 ○エネルギーや食料など、札幌のまちだけではサステナブルではないことから、周辺市町村との関係や地域循環共生圏という考えが重要。 ○持続可能な社会を次世代につなげていくためには、人々の意識を変えることが重要。
	基本目標17に反映 豊かなみどり・生態系と共生する都市 ・うるおいや安らぎを与える森林、公園などの保全・創出 ・みどりの有する価値や機能に着目し、防災、市民交流の場として有効活用の推進	椎野委員	○都市公園の数が政令市で最も多いという社会資本を最大限利活用したまちづくりを進めていくべき。 ○身近に活動ができる場所があることが健康を保つのに非常に重要な要素の一つなので、健康寿命の延伸にも寄与できる公園を活用した取組が重要。 ○公園が持つ、有事の際も機能を発揮できるグリーンインフラという機能が重要。

都市空間分野	基本目標18に反映 コンパクトで人にやさしい快適なまち ・ 主要な交通結節点周辺等に都市機能の集積する取組を推進 ・ 持続可能な交通ネットワークの確立に向けた取組の推進	村木委員	○ 税収減やインフラの老朽化が進む中、100年後に向け、今後10年の都市経営や都市構造をどのようにしていくか検討することが重要。
	基本目標19に反映 世界を引きつける魅力と活力あふれるまち ・ 広域交通ネットワークの充実 ・ 民間投資を促進し、高次な都市機能の集積等を推進	岡本委員	○ 都心部は、札幌駅ばかりに力が入れられていて、都心部全体としての発展がなかなか実現していない現状がある。また、都心の景観や居住誘導がうまくバランスを取って進められているか疑問。 ○ 市役所内での相互の連携や役割分担がうまくいっていない。戦略ビジョンというものの認識を共有し、浸透させていくことが必要。
		原田委員	○ ハコモノは資源・レガシーとして経済を推進する起爆剤として重要であり、新幹線延伸も合わせて積極的に稼げる施設にするべき。
	基本目標20に反映 都市基盤を適切に維持・更新し、最大限利活用するまち ・ 施設の複合化や官民連携による施設整備を推進 ・ 道路空間を広場空間としても活用する等、都市基盤の積極的な利活用を推進	福士委員	○ 施設の老朽化により、複合化が進むと思うが、それを反映していくことが必要。
		川島委員	○ 人口減少社会において、市有施設の機能集約が重要。
		村木委員	○ 税収減やインフラの老朽化が進む中、100年後に向け、今後10年の都市経営や都市構造をどのようにしていくか検討することが重要。
S W O T 分 析	ご意見をいただいた新たな要素を「O機会」に追加するとともに、「S強み」、「W弱み」等を再整理して分析を実施(参考資料2、3)	大西委員	○ 国は、高年齢者雇用安定法を制定し、70歳までの就労確保を努力義務としている。
		村木委員	○ 都心は建替えが控えていることから、グリーンビル化が進むと思われる。
		平本会長	○ 強み、弱みの一部は外部要因入っていると思われるため、再整理が必要。